



鹿屋市立 寿小学校

児童数 684人
学級数 29クラス



《テーマ》

差別と偏見を許さない学級集団づくりをめざす
～認め合い・助け合い・ともに伸びようとする集団作り～

研究に当たって（テーマ設定の理由）

本校の児童には、自己肯定感が低い実態があるため、自分のよさを見つめる手立ての工夫や児童間の相互評価などが必要であると考へた。そこで、外部講師の招聘や児童の体験活動の機会を設定することとした。また、保護者や職員は、児童の自己肯定感を高める意識の向上を目指すことにした。

研究スケジュール

4月 研究推進計画の作成（SGE）
5月 子どもの人権プロジェクト推進校登録式
6月 人権週間の実践
9月 人権教育研修
（5日：職員，9日：家庭教育学級）
12月 人権週間の実践
2月 振り返り，評価

特色ある取組（他校にもおすすめの取組）

□ 人権標語

6月の人権週間に合わせて、全児童が人権に関する標語に取り組んだ。学級代表の作品を校内放送で紹介したり、作品展に応募したりした。

□ ^{コトブキ} 寿 ッズ「思いやりの木」

12月の人権週間に前に、全児童が友達のよさを葉っぱ型の用紙に書き、1本の木にデコレーションして廊下に掲示した。12月の学級PTAで保護者へ紹介した。

□ ハッピータイム（SGE）

構成的グループエンカウンターを土曜授業の朝の活動に位置付け、計画的に児童の自尊感情や自己肯定感を高める活動を行った。



【思いやりの木】



【ハッピータイム】

子どもの人権プロジェクト推進校の取組の成果と課題（子どもの姿、よかったこと、今後やってみたいこと）

- 人権標語や思いやりの木の活動から自己肯定感が高まり、「学校楽しい」との結果が向上した。
- ハッピータイムを計画的に行い、フィードバックまでの時間を確保したことで、学級の絆が高まり、集団への所属感を育むことができた。
- 自己肯定感については、学級差や個人差があるため、家庭や地域との連携を図り継続して取り組む必要がある。